

世界に希望をもたらす神の言葉を取り次ぐために

「疲れた人を
励ますように」(イザヤ書 50:4)

世界の情勢を見ると、私たちの頭上には暗雲が立ちこめているかのように思えます。暴力の連鎖には歯止めがきかず、安穏と暮らしている私たちの日常生活にも不安が忍び寄ってきます。いったいこのような時、人間は何を語ればよいのでしょうか。人間の言葉はどこまで有効なのでしょうか。もちろん政治や法、経済の知識に基づいて状況を分析し、現実的な解決の道を探ることは大事なことです。しかしそれがすべてでしょうか。人間の問題が根本的なところで解決していないところでは、対症療法にはおのずから限界があります。

同じように打ち沈んだ暗い時代のただ中で、イスラエルに預言者が立てられました。彼も欠け多き土の器でしたが、神の知識を学ぶことの中で、神からの知恵と言葉を語るように訓練されます。「主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え、疲れた人を励ますように、言葉呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし、弟子として聞き従うようにしてくださる。主なる神はわたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退かなかった」(イザヤ書50:4-5)。その言葉が世界に本当の希望をもたらしました。それが最も明確に表示されたものが「福音」、イエス・キリストにおいて世界に救いと平和をもたらそうとする神の言葉です。東京神学大学はそのような神の言葉を深く学び、それを現代世界に取り次ぐために建てられています。神の召しに勇気をもって応えてください。あなたの入学をお待ちします。

学長 芳賀 力

東京神学大学の校章の由来



東京神学大学の校章は、ギリシア語で神学を意味するテオロギア (theologia) という単語をアレンジしたものです。テオロギアとは、テオス (theos: 神) についてのロゴス (logos: 言葉・学問) という意味です。神学の学び舎では、著の上げ下げに至るまで、神学することが求められます。



大学認証評価

本学は2012 (平成24) 年度の公益財団法人大学基準協会の大学認定評価を受審し、大学基準に適合していると認定されました。

東京神学大学神学部神学科 アドミッション・ポリシー 〈入学者受け入れ方針〉

本学は以下のような能力・意欲等をもつ学生を求めます。

1. 召命を確信し現代人の問いに答える福音を語る伝道者をめざす者
2. 神学の学びを志す者
3. 神に仕え、隣人に仕える積極的な姿勢を有する者
4. 幅広い知識と豊かな教養を身につけ、コミュニケーション能力を高めたいと願う者
5. 基礎学力を有し、論理的思考ができる者